

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

福 福

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成17年度から、このグループホームの外部評価をさせていただいて今年度1月に4度目の訪問となった。前年の夏、開設から運営に努力を続けてきた管理者によって、「人の和、地域への密着、快適な暮らし」の3つの運営の方針を掲げ、毎年度の目標を立てて着実に居心地の良いホームをつくりあげてきた功績は大きかった。そして若さが利用者にも親しまれ、楽しい雰囲気をつくってきたが、結婚を機に惜しまれながらこのホームを去った。

その後のホームの雰囲気や運営がどのようになるだろうと少し心配して四度目の訪問となった。グループホームというのは、特に管理者の人材によってそのマネジメントも変われば、利用者の生活状況も変わってしまうのがよく見られるのが通例である。1ユニット6～9名程度の職員で運営されている小グループの職員に与える影響は大きい。先ず、福福ユニットの管理者は継続し、雅ユニットの管理者には職員の中から新しく管理者に選任され、この2人の管理者のチームワークによって5ヶ月位運営されてきたことになる。2人の管理者は性格的にも年齢的にも似た関係により、新しいコンビが始まった。この1年間職員の大きな変動もなく、雅ユニットは役職の変更程度で安定している。利用者は雅ユニットが半分程度、死亡や病気、家族の都合の理由で変動があったが、いずれにしても重度化は進んでいる。その中で大きな運営の違いが出てきたことがある。それは2つのユニットが別棟で2棟が並んで建てられ、玄関も別々になって2つのホームというレイアウト上からの性格もあったことから、2つのユニットが個別の行動をしていたという傾向が見られた。今回は2人の管理者の“協調と共同”の考え方が前面に出て、2つのユニットが一緒に助け合っていくとする雰囲気が目立ち、2つのユニットが一体化してきたという実感があったことである。具体的には、ユニットの中でも全員一緒に外出することは、利用者の状況によって出来なくなっている。利用者同士でもADLの違いや精神状態と性格によっても、行動範囲に制約があっても、残った人を別のユニットの人と一緒に外出をしたり、あるいは職員同士が融通し合っで見守ったり、行動するという職員同士の調和がとれるようにしようという意思疎通がとれるようになった。その為にはお互いに職員が両方のユニットの利用者の顔見知りになろうと交流が始まったそうだ。職員と利用者の一つのホームとしての友愛と敬意の関係づくりがどんどん進んでいくだろうし、現実も大変明るい元気なホームになったなあと安心の目で見届けられた。今後の進展に期待したい。

特に改善の余地があると思われる点

新しい体制で、ホームは活気づきを増してきた。2つのユニットが常に協働して、利用者の幸せを作ってあげて欲しい。利用者が、このホームで住むことが一番楽しいと言ってくれる住む処をつくりあげるのが、介護士としてもプロ集団であるという誇りを持って欲しい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：開設以来、理念は変わっていない。この理念は、極当たり前のことであり、この3つの方針を常に念頭に置いて、ケアや日常の業務に当たっていくと、両ユニットの管理者は運営に自信を持っていた。</p> <p>2、全体的に見て…：「人と人の和を大切に明るいホーム作りを目指します」という運営方針の一番大切な所が、今回の体制で大きく改善の方向に向かっていると思う。この方針は、代表と管理者、管理者と職員、利用者と職員、利用者同士、職員と家族、ホームの全体の人と地域の人々という「和」が利用者の生活づくりに役立っていかねばならないし、このホームの存在を通して利用者と家族の絆が強く結び付いていけるということが、益々強くなっていき、18人の利用者が明るく元気な暮らしができるホームになった。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：敷地と建物及び設備、周辺の環境共にハードな面において改善する事項はない。リビングルームでの生活をより楽しくするためにレイアウトを変えたり、利用者の作品等を飾り、その人らしい生活ができるソフト面に工夫を凝らしている。</p> <p>2、全体的に見て…：各ユニットの玄関の外のポーチにはベンチが置いてあり、散歩や外出する前にはこのベンチに座って準備をしたり話し合っている。両ユニットの利用者達がこのポーチやホームの空地で交流を深めていくであろう。特に雅ユニットの南の前庭では、ホーム全体の祭りや行事をして、地域の人達や家族との楽しい時間も過ごしている。その前面には本格的な農園があり、いつも旬の野菜が育っている。今日の調理に活かされている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメントに関する各事項に改善するところはない。運営方針の第3に掲げている「安全で快適な暮らしをサポートします」と20年度の長期的サービス計画「笑顔で心地良く過ごせる生活」の実現に向けて、一つひとつのケア及び日常業務の改良に努めていこうとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者一人ひとりの尊厳を大切にしていくための具体的な行動をはっきりと書く職員が自覚していることが、当たり前のことではあるが、しっかりと心掛けておかなばならない重要なことである。「何かしてあげるのではなく、させてもらっているという気持ちを大切に、利用者の生きてきた人生を、誰にも負けない、人に役立つものにしてあげたい。そして人に役立つ気持を持って利用者がその人らしく生きていけるよう一人ひとりに応じた支援をしていきたいと申し合わせている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営体制についても特に改善事項はないが、2人の管理者が新しくチームワークを組んで、代表者からの信頼も受け、2つのユニットを合同して交流と助け合いのタグを組んで運営に当たっていることが、このホームにとって一番の力になっているし、今後の発展に大いに期待できる。理念の第2にある「地域に親しまれる地域に密着したサービスを提供します」の充実に努めてもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者のケアに対する一連の介護計画の作成プロセスは大変良く行っている。入所時のアセスメント、ホームでの生活のアセスメントもしっかりしており、介護計画を家族と一緒に作っている様子が、利用者の家族が同意書に書いているメッセージを読むと、職員の利用者に対するケアと職員の気持ちを表現している事に感動した。これらの様子は、運営推進会議で家族から発言してもらったり、このメッセージを紹介して、ホームの具体的なケアサービスを地域の人にも知ってもらいたいと思う。</p>		